

## 災害・犠牲者ゼロを目指して



石崎たか子 議員

### 質問

「知ろう！地震のメカニズム。見よう！記録に残る海部地域の地震被害」

明治24年、根尾を震源とした濃尾地震が直下型地震として、いまだ、国内最大と言われている。愛西市はこのプレート型直下型地震の影響を受ける危険性のある地域と警告されている。

既往最大を超える豪雨災害の多発に、市はどのように対処するか。水災害講演会で片田教授より講話を聞いた。既往を超える災害に、愛西市の北部で木曾川が破堤した

場合、ほぼ全域が浸水する。

南部で木曾川が破堤した場合、木曾川海部幹線水路、佐屋川に挟まれた地域では、浸水深が深くなり、佐屋地域まで浸水するとされた。

改めて講話について市長の見解を。

### 市長

講演会を私自身も聞いて、今まで以上に防災・減災に対して意識が高まった。

スーパー伊勢湾台風ということで、台風の予想進路によって、いち早い段階で避難勧告、避難指示が発令できる

よう、市民に理解される意識づくりが必要であると感じた。

### 質問

大井地区の一時避難所であった永和荘の現状は。

### 総務部長

最終的には維持費、修繕的なものを考え、平成20年8月に断った。

### 質問

「悲願！水害避難の丘の整備」について、蟹江町は水害避難の丘を整備すると予算にあげている。佐屋、永和地区の人にとっては、海拔マイナスイ2m前後で、本当にこんな所があったらと考える。

永和荘、親水公園、金棒グラウンドの一隅を活用できないか。リニアの中央新幹線の東京・名古屋ルートが工事になったら、その土をいどこかに5mくらいの高台を造れないか。

### 市長

永和荘は、市として買収しない。予算的にも難しいと返

事をした。愛西市においては、確率的にいうと地震より台風、水害のほうを心配しなければならぬ。

### 質問

今後、市民の心の痛みのあるわかる市政、思いやりのある行政であってほしい。

避難協定は、その後、何社になっただか。舟は今、何艇用意されているか。

### 総務部長

現在、6施設、その他に物資協定と併せて施設利用、屋上の駐車場の一部利用を願っている施設も3店ある。

舟艇は39艇、ゴムボートは18艇保有している。

それぞれの消防本部、各小学校、防災コミュニティセンター、消防団の詰所に、配備しているのが、現状である。



▲愛西市の防災訓練